



E-Mail: taniyama-cc@lagoonne.jp URL: http://www5.ocn.ne.jp/~tycc/
発行人: 頭島光神父 編集委員: 上原敏子、上釜照美、徳永珠美

「復活の神秘」

聖書のみ言葉、たとえ話とても面白い！
勇気づけられますよ

カトリック谷山教会 主任司祭 トマス頭島光

皆様、主のご復活の時が迫っています。四旬節という回心と癒しの期間は終わり、新しい命の時が始まったのです。復活の朝は、まさにその意味で特別な瞬間です。キリストの身の回りのことから何もかもお世話していたのは、やはり女性たちでした。彼女らは決してみなが聖人ではありませんでした。罪人であった女性もいました。聞き分けのない頑固な女性もいたのです。しかし、皆がイエスから愛され、赦され、そして癒された人々でした。愛が彼女たちの人生を変えたのです。復活の朝、みな一体何があったのか、彼女たちがそのとき見たものは何だったのか、見ていきましょう。

◆マグダラのマリア

この女性は、以前、イエスから七つの悪霊を追い出していただき、癒された人です(マルコ16:9)。他にも数人の女性たちがいましたが、マリアはイエスが十字架につけられる様子を「遠くから見守り」(マルコ15,40)、また埋葬される場所も「見つめていた」(マルコ15,47)と記されています。



婦人たちの中で最も重要な人物として知られているこの女性、福音書では「週の初めの日、朝ごく早く」(マルコ16:2)とあるように、日が昇ってすぐ墓に向かって行っただけです。それは、香料をイエスの体に塗るためでした(マルコ16,1)。ところが、そこで彼女が見たのは「一人の若者」でした。その若者は彼女に言いました。「イエスは復活され、ここにはいない」(マルコ16:6)と。そして、このことを「弟子たちに告げよ」と言われたのです(マルコ16,7)。

◆復活のメッセンジャー

婦人たちは、天使の声とその言葉を聞いて、「恐ろしくなり、何も言わなかった」(マルコ16:8)と記される一方で、マグダラのマリアは、「このことを知らせた。しかし彼らは…信じなかった」(マルコ16:10-11)と言っている。つまり、彼女は少なくとも、イエスの復活のメッセンジャーであった。それを聞いても信じなかった人々とはイエスの弟子たちのことですが、マリアは信じていたのかというと、恐らく彼女も事の次第は了解していたものの、復活までは信じてなかったと思われる。なぜなら、その天使の一人から

「婦人よ、なぜ泣いているのか」と問われたとき、マリアは振り返って「主が取り去られました。どこに置かれているのか知りません」(ヨハ20:13)と答えているからです。

◆「主を見て」信じる

福音書では、復活は「見る」という言葉で、初めから語られているようです。マグダラのマリアも「私は主を見た」(ヨハ20:18)と弟子たちに告げると言います。弟子たちもその声を聴いて、「私たちも主を見た」と証言しています。ところが、イエスは復活から8日後もイエスを見ていない、だから信じないと豪語していたトマスに現れ言いました。「見たから信じたのか。見ないで信じる者は幸いだ」と。このように復活とは初めは見ることでしたが、後には「見なくても信じることができる」人々の信仰によって支えられるようになったのです。

◆朝のガリラヤ湖畔

弟子たちは、いつものように出て行って、漁に出かけます(ヨハ21:1)。湖畔にはイエスが立っておられます。夜からガリラヤ湖に出かけ船を出しますが、何も取れずに帰ってきます。既に夜は明けていて、朝方のガリラヤ湖畔でイエスに出会うのです。突然、「食べるものがあるか？」とのイエスの言葉に「ありません」とだけ言います。貧しさ、乏しさ、やるせなさが充満しています。イエスの一言はとても私たちをも勇気づけてくれる言葉です。「右側に網を打ってみなさい。そうすればとれる」と。実際、みことばに聞き従って行動を起こすと、何と魚はいっぱい。余り多くて網を引っ張り上げることすらできない。復活の恵みはいつも満ち溢れているものなのです。



御復活おめでとうございます アレルヤ

墓石は取り除かれ、白い衣を着た若者が座っていた。あの方は、ここにはいない。復活されてガリラヤへ行かれる。そこでお目にかかる。(マルコ福音書 16・1-7)



「全世界に行って福音を宣べ伝えよ。信じる者は救われるが、信じない者は滅びる(マルコ福音書 16・14-16)

レデンプトール会の聖人 聖クレメンス・マリア・ホフバウアー司祭 帰天 200 周年記念ミサ



2021年3月15日(月)、今日、私たちはレデンプトール会の宣教師かつ「第二の本会創設者」である聖クレメンス・マリア・ホフバウアーの帰天 200 周年記念締めくくりの日を迎えました。

彼のミッションのテーマは、「福音は、あらゆる年齢、すべての世代の人々に、これまでにない全く新しい方法で、みな理解できる言葉で宣教される」ということです。クレメンスは、直面する様々な障壁をもちもせず、決して希望を失いませんでした。落胆したり、苦々しくなることを極端にまで嫌う人でした。今、新型コロナウイルス感染症を乗り越える私たちにとって優れた模範です。今なら、彼はきっと私たちに言うでしょう。「決して諦めないで、新しい方法を見つけてください。そうすれば、最後まで希望を失わないで続けられます！」

福音を、新たにのべ伝えるためです。クレメンス自身の考えでは、そのためには、決してリスクを顧みず、創造力を用いて立ち向かい、最後まで忠実な使徒であることです。たとえ、私たちの前に大きな障壁が立ちあがらうとも、決してあきらめることがないように。また希望の心を失ったりしないでください。勇気をもって出向きましょう。

(マイケル・グレール神父様の原稿、頭島神父様提供)



ごミサに与った方々

ハンマ神父様、メニヒ神父様も、

今月の聖人から

4月29日(木) 記念日

聖カタリナ (シエナ) おとめ教会博士



カタリナは、おとなしい父と働き者の母の 24 人の子どもの末っ子として、イタリアのシエナに生まれた。幼いときから修道生活に憧れていたが両親の反対にあい、18 歳のときにドミニコ会の修道院に入ることができた。14 世紀は、教会内の分裂、ペストの流行、教皇のローマからアヴィニョンへの退去などで混乱していた。カタリナはペスト患者や貧しい人びと、刑務所にいる人びとのために献身的に働いた。また、手紙や著書をもって教会と国家のあいだの困難な問題、特に教皇のローマ帰還、ドミニコ会の改革のために貢献した。

(聖パウロ女子修道院)



お知らせ 報告

3月14日四旬節第4主日のミサのなかで、洗礼志願式が行われました。洗礼志願者は次の方々です。楠原陽子さん、谷口智子さん、内村友則さんです。御復活の洗礼志願式まで、無事に迎えられるように、お祈り致します。



「神様に勤勉に忠実に仕える者になる」

2021年3月19日、丁度聖ヨセフの主日に、スンバでのウェエタブラ教区の大聖堂で、喜びの内に司祭叙階式が行われました。その時、新司祭がエドムン。ウォガ司教様の手から叙階を受けられました。一人の新司祭はレデンプトール会員のアベ新司祭です。彼は今度日本に派遣されると決められているのです。



<写真：アベ新司祭とインドネシア管区の修練者>

それでは皆さん、その司祭叙階式のテーマは「神様に勤勉に忠実に仕える者になる」です。そのテーマによって、新司祭がどんな状況にあっても聖ヨセフの模範に倣いながら神様に

に勤勉に忠実に仕える者になるようにと期待されています。エドムン。ウォガ司教様は、説教の中で、司祭たちと修道者たちに、特に新司祭に対して、「聖ヨセフは、決して自分自身を中心にしていませんでした。むしろ、聖ヨセフは常にイエス様とマリヤ様を第一に、中心にしていたのです。ですから、私たちもその自己犠牲の精神と徳のある聖ヨセフの模範に倣い、その聖ヨセフの自己犠牲の精神と徳を取り入れるべきことが大事なことです。そして、聖ヨセフのように私たちが日常生活の中で神様から頂いたすべての恵みをより多くの人々に無償で分かち合うことを大切にしましょう」と言われました。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、まだ非常に制約された形での状況の中でも、出席者は限られ、感染に十分に警戒しながら、その司祭叙階式が厳粛な雰囲気の中で行われたので、感謝いたします。

ボスコ神父様

2021年4月の<公開ミサ>の予定と典礼奉仕のお願い

◆いよいよ新年度を迎え、4月1日から聖なる過ぎ越しの三日間に入ります。喜びのうちに今年も復活徹夜祭に3にんの志願者が洗礼の喜びを受けます。新型コロナウイルス感染症に負けることなく喜びを味わいましょう。新型コロナは威力を変えて、まだまだ私たちを安心させてはくれないようです。これからもできる限りの策を講じ、復活の時を喜びのうちに迎えたいと思います。

◆4月の典礼奉仕も引き続き、以下のようにご協力お願いします。

◆主日ミサは分散して参加しましょう。日曜の9時ミサ。土曜の前晩ミサ(午後7時)及び早朝ミサ(午前6時半)です。*ただし復活主日の朝ミサ6時半はありません。

◆入堂前には、必ず手指消毒とマスク着用をお願いします。

◆三密回避として聖堂入場を50人までと制限しています(*典礼奉仕者を除く)。

◆人数制限を超えるときはロビー内、泣部屋は子ども連れの家族のみとします。

◆聖堂内では白印を前に、ご着席ください。換気・加湿も同時に行っています。

◆聖体拝領は一列に並び前後間隔を1m以上あけて前へゆっくりお進みください。

■4月の典礼奉仕の先唱及び朗読の役割分担は以下の通りです。

◇ 4月4日 復活主日 午前10時ミサのみ～ライブ配信 先唱及び朗読奉仕●2・3班

◇ 4月11日 復活節第2主日 午前9時～ライブ配信ミサ 先唱及び朗読奉仕●4班

◇ 4月18日 復活節第3主日 午前9時～ライブ配信ミサ 先唱及び朗読奉仕●5・11班

◇ 4月25日 復活節第4主日 午前9時～ライブ配信ミサ 先唱及び朗読奉仕●6・7班

◇ 5月2日 復活節第5主日 午前9時～ライブ配信ミサ 先唱及び朗読奉仕●8・9班

★「すべての命を守るために」はじめての一步を踏み出すために、今、私たちにできるのは排除され、忘れられ、不正を強いられる人々を顧みることです。排除や差別、自己中の心を捨て、互いに支えあいましょう。そして祈りの内に連帯し、希望の光で照らしだし、愛の手を差し伸べましょう。

神に感謝！ (2021/3/27) 主任司祭 トマス頭島光

令和3年(2021年)		谷山教会4月の予定と祝日表		(4月1日～4月30日)		
日	時間	典礼と行事	朗読奉仕者	掃除当番	班会等	
1(木)	19:00	聖木曜日 主の晩餐のミサ				
2(金)	19:00	聖金曜日 (大斎・小斎) 十字架礼拝 聖地のための献金				
3(土)	19:00	復活徹夜祭 洗礼式		②③	教会	
4(日)	10:00	復活の主日	②③			
5(月)	6:30	朝ミサ				
6(火)	6:30	朝ミサ 世界女性祈禱会				
7(水)	19:00	召命ミサ				
8(木)	6:30	朝ミサ 18:30～典礼委員会				
9(金)	6:30	朝ミサ				
10(土)	19:00	復活節第2主日のミサ		④	教会	
11(日)	6:30&9:00	復活節第2主日 (神のいつくしみの主日)	④			
12(月)	6:30	朝ミサ				
13(火)	6:30	朝ミサ				
14(水)	19:00	召命ミサ <求道者勉強会V>15				
15(木)	6:30	朝ミサ				
16(金)	6:30	朝ミサ				
17(土)	19:00	復活節第3主日のミサ ミサ後～求道者勉強		⑤・⑪	教会	
18(日)	6:30&9:00	復活節第3主日のミサ ミサ後～司牧評議会	⑤・⑪			
19(月)	6:30	朝ミサ				
20(火)	6:30	朝ミサ				
21(水)	19:00	召命ミサ				
22(木)	6:30	朝ミサ				
23(金)	6:30	朝ミサ				
24(土)	19:00	復活節第4主日のミサ		⑥・⑦	教会	
25(日)	6:30&9:00	復活節第4主日 ミサ後～2021年度信徒総会 世界召命祈願の日	⑥・⑦			
26(月)	6:30	朝ミサ				
27(火)	6:30	朝ミサ				
28(水)	19:00	召命ミサ <求道者勉強会V>16				
29(木)	記念日 6:30	シエナの聖カタリナおとめ教会博士 朝ミサ 昭和の日				
30(金)	6:30	朝ミサ				
5/1(土)	19:00	復活節第5主日のミサ ミサ後～求道者勉強		⑧・⑨	教会	
2(日)	6:30&9:00	復活節第5主日	⑧・⑨			

今月の当番班は8・9班です

ロザリオの祈り	毎週(火) 10:00	6日、13日、20日、27日
レジオ・マリエ	毎週(水) 14:00～	7日、14日、21日、28日
聖体礼拝	毎週(木) 10:00～	1日、8日、15日、22日
十字架の道行	毎週(木) 13:00～	
聖書と教理Ⅱ	毎週(金) 10:00～11:30	2日、9日、16日、23日、30日